

日常にイロドリを！ 美術・文化資源の情報共有 “ワタシギャラリー”

テレビで海外の美術館はよく放送されているけれど、自分の町にはどんなものがある？
気にはなってもなかなか実際に見には行かない、また収蔵品がすべて展示されては
ない、こういった“知っている人は知っている”というままではもったいない！
美術館・博物館などの文化資源の情報をオープンデータとして公開し、それを活用して
作品に触れる機会を増やそう、身近にしよう、という企画です。

活性化のために情報のオープン化を進める、これが重要です。

●効果 ※実現までのステップについては次頁

ステップ 1	
本当は美術館行ってみたいけど、情報が少ないし、詳しくないと楽しめないのかな…？	どこにどんな展示品があるか施設をまたがって知ることができる → 潜在的なファンの掘り起こし！
展示されてるのって、収蔵品の一部なんだよね…？	展示していない収蔵品の情報が見られる！ ニーズ収集から、展示品選考の参考にも！
ステップ 2	
専門家じゃない、一般の人ってどんな展示が見たいの…？	収蔵品に対するニーズがわかる！
ステップ 3	
展示物って、正面からとか一部しか見られない…？	デジタルデータ化により、 長〜い巻物も、最後まで見られる！ 全周囲撮影で、立体物がどの角度からも見られる！
ステップ 4	
気に入ったものは実物が見たいけど、展示されていない…？	ニーズが多ければ実際に展示されるかも。近くにこんな作品があったなんて、見に来てよかった！

●オープン化の頂上までの4ステップ

① 文字情報のオープンデータ化

各施設の収蔵品を統一フォーマットでリスト化し、データベース上にオープンデータとして公開。合わせて、検索したりお気に入り登録が出来る、閲覧アプリを公開します。

所蔵品管理者にはデータベースは随時更新できるようにし、現在の展示品フラグを付けたり、新しく説明を追加したりできるようにします。

--

現状、各収蔵品管理者においてそれぞれ収蔵品一覧をデータ化されていると想定されますので、それを統一フォーマットにあてはめていく作業になります。

情報の鮮度を保つため、エクセルでの公開ではなく、データベースとしての公開が望ましいです。

② “ワタシギャラリー”公開

一般の人でも実際の学芸員の人でも、自分好みで作品を選択して展示会を企画する = キュレーションして、VR 仮想空間上でマイ展示会“ワタシギャラリー”を公開できるようにします。

展示スペースや関係者間の制約もなく、また所蔵先がまたがっても OK、自分でセレクトしたギャラリーを公開できます。

公開された VR 展示会は、閲覧アプリから誰でも見ることができます。

--

最初は文字情報ですが、ステップ 3 を進めると、徐々に画像での公開となります。

ギャラリーごと、展示品ごとの閲覧数を取得し、これも公開して、作品の潜在的な人気、キュレーターの人気が分かるようにします。

③ 作品画像のオープンデータ化（②と並行して）

収蔵品を 4K 撮影します。彫刻・陶磁器などの立体物は全周囲撮影します。

閲覧アプリ上での検索から表示出来たり、各“ワタシギャラリー”でも画像付きなので実際の展示会を VR 仮想空間上に公開できます。

④ いろんな“ワタシギャラリー”からニーズを吸い上げ、現実の展示会を開催

いろんな“ワタシギャラリー”の「訪問者数」「展示品の閲覧数」から、実際の学芸員の人がニーズを収集し、現実の展示会開催に活用することができます。

--

実現は難しいとは思いますが、例えば収蔵施設をまたがった展示会など、これまでとは違う視点での展示会が出来るかもしれません。

以上、ご検討よろしくお願いたします。